

さて、北海道の開拓・発展に欠かすことが出来ないものを挙げるとすれば、囚人労役と屯田制度であろう。道路開削に囚人が果たした役割は、極めて大である。囚人労役を抜きにして道路開削の話をする事は出来ない。

囚人労役の6～7割は、所謂、耕転、採鉱、土方、運搬等の外役であるのが、北海道の囚人労役の最大の特徴である。道路開削と炭鉱・硫黄鉱等採鉱に従事し、彼等の労役無くして北海道の今日はなかったのかも知れぬ。例えば、空知集治監は幌内炭鉱の、釧路集治監は跡左登硫黄山の採鉱に従事し、樺戸・網走集治監の囚人は、本稿のテーマである道路開削、それも北海道の悲願でもあった横断道路、「上川・北見中央道路」（現在の国道 333 号線の大部分）の建設に動員された。

政府は、明治 19 年 1 月布告し、函館・札幌・根室の 3 県及び北海道事業管理局を廃し北海道庁を設置した。道庁の初代長官には岩村通俊が就任した。岩村長官と次の永山長官は、金子堅太郎が「北海道三県巡視復命書」において展開した全道道路網の根幹となる中央道路構想の実現を図り、金子が指摘した ① 委員を命じて道路線を画定すること ② 集治監の囚徒を道路開削の事業に使役すること ③ 道路を開築すると同時に排水路を開通すること ④ 新開の道路に沿い、屯田兵を置くこと の四項にわたる築造順序・方法にほぼ基づいてその完工に力を入れたのをはじめ、囚人使役による内陸幹線道路の築造を強力に推進した。岩村長官は就任すると直ちに従来上川開発の為に働かせていた高畑利宣を東京から呼び寄せて道路線の実測にあたらせ、19 年中に中央道路計画の第一歩である上川郡仮道を竣成させ、20 年の施政方針演説では、高畑等の調査に基づき 一 札幌～空知～上川～東釧路～根室 二 樺戸～北増毛 三 釧路～北網走 の中央道路を含む三路線を新たに開削する内陸道路としてあげた。屯田兵本部長在任のまま道庁長官に就任した永山長官も岩村長官の方針を受け継ぎ、明治二十二年度から向こう 5 ヶ年間に道路 7 2 8 里を開削する計画をたて、屯田兵の強化と関連して内陸幹線道路の築造をはかった。(北海道史第四巻 3 3 5 P)

#### ① 中央道路建設

北海道を横断する内陸道路構想は、早くは近藤重蔵の上書等に見られるが、中央道路の名の下に札幌から根室に達する数本の内陸道路が本格的に検討され始め、道庁設置前後には、札幌から上川～富良野原野を抜け、人舞（の今の狩勝峠越えルート？）～陸別～標茶～昆布森～根室にほぼ確定していたが、調査結果により、上川から北見山脈を越え（今の 333 号線ルート）、網走に達し、阿寒山系を越え標茶を経て釧路あるいは根室に達する網走経由線に変更された。中央道路というのは、本来は札幌～根室間の内陸道路を言うのであるが、忠別太（旭川）～網走間の北見新道が完成すると、囚人労働史上最も過酷な事例の印象と結びついてか、この北見新道をもって巷間「中央道路」と呼ばれるようになった。明治 19 年の市来知～忠別太仮道工事（樺戸集治監囚徒）に始まり、20～22 年の空知太（滝川）～忠別太（旭川）本道工事（樺戸集治監囚徒）、21～23 年の岩見沢～空知太間道路工事（札幌監獄、空知監獄等）、21 年～23 年の釧路

～標茶～釧路の3角ルート、硫黄山～網走間建設（釧路監獄囚徒）、忠別太～網走間の工事には、空知監獄、空知集治監囚徒、網走分監、樺戸本監囚徒等が動員された。

② 大津～帯広～芽室川高台

釧路分監が大津から新得までの道路開削工事を請け負うこととなり、大量の囚人が投入された。明治25年（1892）、北海道集治監釧路分監帯広外役所が帯広柏葉高校付近に開設された。晩成社の事務所の3丁ほど西方である。明治26年5月予算が尽きたので、打ち切られた。この大津街道（十勝川河口の大津から新得まで、ほぼ現在の国道38号線か）の開削により、内地からの大量の移住者を受け入れることが可能となり、十勝原野は急速な発展を遂げた。（以上は、小生の「朔東から第12号」に記述済み）

網走監獄博物館で、当時の網走監獄囚徒の生活状況のみならず、囚徒が任じた道路工事の様相を蝋人形で確認することが出来る。安部譲二の「囚人道路」は、その様相を描いている。網走監獄沿革史によると次のように記述されている。

「過度の労働は健康を害し、不検束と役事の困苦は多数の逃走者を出さしも、更に他顧するところなく一意専心、唯だ工事の速成を期せんとせしものの如くなりし。特に粗雑の休泊所に多数を雑居せしめたるがため弊害百端、余弊今日に及べるものにして少しと為さず。又、当時最も困難を感じたるは医事衛生に関する事項とす、一時的の仮泊所固より飲料給水の方法あり得べくの理なく、加ふるに霧雨連日に涉り一種の水腫病を發し、日々数名の新患者を出したるも荆棘無人の間、道路相隔り、日々休泊所を巡診せんこと一医員の到底能くすべきところにあらざるを以て療養看護自ら違算なき能はず、夏期数ヵ月の間、死者百以上を算するに至る」

「鎖塚」「博物館網走監獄」「標茶町郷土館」等で往時の過酷な環境状況下での道路建設に思いを馳せるのも、現在の有り難さを考える上で有益であろう。

（参考：新北海道史、北海道郷土史、各種のHP etc）